

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 8 年 2 月調査結果 - -

(平成 1 8 年 3 月 2 日)

調査期間：平成 1 8 年 2 月 1 7 日～ 2 3 日

調査対象：全国の 4 0 5 商工会議所が 2 5 8 9 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 9 製造業 6 2 5 卸売業 2 3 2
小売業 7 4 2 サービス業 6 1 1

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題など

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

業況D Iのマイナス幅はわずかに縮小も、仕入コスト上昇など不安要因漂う

2月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（26.9）よりマイナス幅が0.3ポイント縮小して26.6となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

業種別の業況D Iは、製造、小売でマイナス幅が拡大したものの、他の3業種で縮小したため、全産業合計の業況D Iのマイナス幅も縮小した。業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声の一方、依然として公共事業の縮小、原油・素材価格の高騰等による景況の停滞感、購買意欲の減退など消費の低迷、先行き不安を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「引き続き個人住宅など民間工事のニーズが高く、設備投資も一部で進むなど民間活力への期待感が高まっている」（一般工事）との声がある一方、「新年度へ向けて公共事業の発注時期になったが、公共事業自体が減少傾向にあるため、非常に厳しい状態」（建築工事）との声のほか、「公共事業の減少に加え、原材料仕入コストや運賃の上昇も重なり、採算面で大きな影響を受けている」（一般工事）と、コスト増による影響を訴える声も寄せられている。

【製造業】では、「売上、営業利益ともに前年同月に比べて増加しており、景気の回復は中小企業でも感じられるようになってきた」（工業用プラスチック製造）との声がある一方、「中小企業にも業況改善傾向が波及しているというが、当業界では需要不足が続いており、先行きに期待が持てない」（製材木製品製造）といった声や、「受注はあるものの、原材料の仕入コスト上昇や人件費の増加により、採算は好転していない」（金属加工機械製造）と、引き続き原材料の仕入コストなど諸経費の増加による影響を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「昨年から上向きつつある荷動きがさらに活発化することを期待したい」（衣服・日用品卸売）との声がある一方、「取引先の弱体化が激しく、卸売業界でも景気が回復しているとは到底言えない」（食料・飲料卸売）、「業況は少しずつ改善の方向へ進みつつあるが、一時的な動きとの見方もあり、先行きに自信が持てない状況が続いている」（衣服・日用品卸売）との声が寄せられている。

【小売業】では、「来店者数はほぼ前年並みであったが、売上が増加しており、業況は堅調に推移している」（百貨店）との声がある一方、「地域経済に回復の兆しがなく消費者の購買意欲も低いままで、業況は非常に厳しい」（商店街）、「仕入コスト上昇と為替の影響で販売価格の上昇が生じ、売上が減少した」（百貨店）との声が寄せられている。

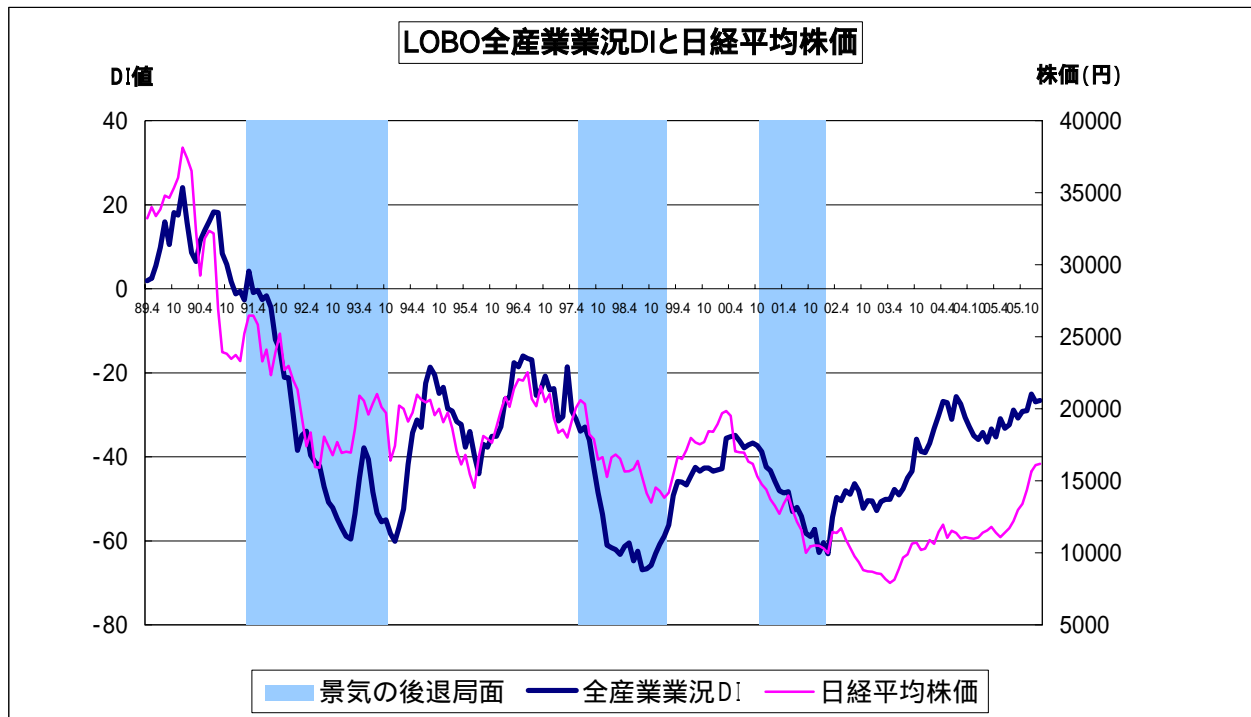
【サービス業】では、「年末年始と春の観光シーズンの端境期であったが、地元名物目当ての来客数が増えている」（旅館）との声がある一方、「昨年並みの売上を維持しているものの、競争激化により、今後予想される仕入コストの上昇分を販売価格に転嫁できない状況にあるため、先行きは厳しい」（他の一般飲食店）といったコメントのほか、「自動車の燃料である軽油の値上げ傾向が続いており、採算が悪化している」（その他サービス）と、原油高の影響を訴える声も聞かれる。

売上面では、D I 値のマイナス幅はサービスで縮小したものの、他の 4 業種で拡大したため、全産業合計の売上 D I は 1 . 8 ポイント拡大して 2 4 . 2 となり、2 カ月連続で拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、卸売、サービスで縮小したものの、他の 2 業種で拡大したため、全産業合計の採算 D I は 1 . 0 ポイント拡大して 2 9 . 5 となり、2 カ月連続で拡大した。

向こう 3 カ月 (3 月 ~ 5 月) の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月比ベース) が 1 6 . 9 と、昨年同時期の先行き見通し (2 7 . 4) に比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声の一方、依然として公共事業の縮小、原油・素材価格の高騰等による景況の停滞感、購買意欲の減退など消費の低迷、先行き不安を訴えるコメントが多く見られた。



【業況についての判断】

2月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 26.9 ）よりマイナス幅が0.3ポイント縮小して 26.6 となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

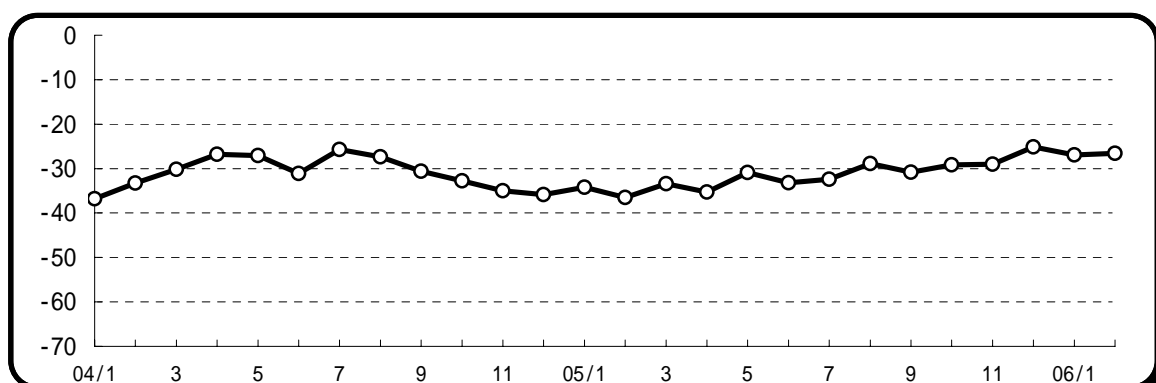
向こう3カ月（3月～5月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 16.9 と、昨年同時期の先行き見通し（ 27.4 ）に比べて改善している。

業況D I（前年同月比）の推移

	17年 9月	10月	11月	12月	18年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	30.8	29.2	29.0	25.1	26.9	26.6	16.9 (27.4)
建設	41.0	37.6	37.5	38.1	38.3	37.3	33.5 (42.0)
製造	21.2	18.0	19.5	14.9	12.2	12.7	9.2 (20.9)
卸売	29.3	41.5	32.5	31.9	38.4	35.7	21.1 (23.3)
小売	33.7	32.6	28.0	23.2	25.2	26.6	13.9 (29.0)
サービス	31.3	26.7	33.3	27.1	32.9	30.8	16.4 (24.0)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年2月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

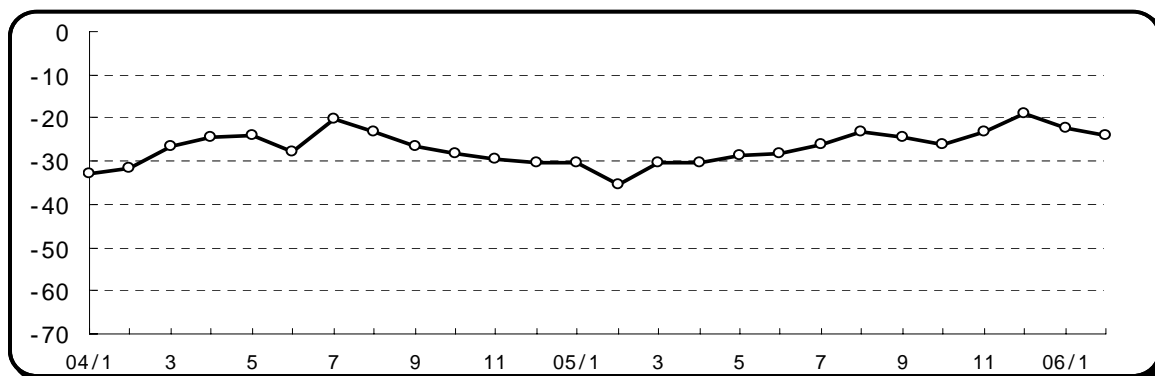
売上面では、D I 値のマイナス幅はサービスで縮小したものの、他の4業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は1.8ポイント拡大して24.2となり、2カ月連続で拡大した。

向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が10.5と、昨年同時期の先行き見通し(21.5)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	17年 9月	10月	11月	12月	1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	24.6	26.3	23.1	18.9	22.4	24.2	10.5 (21.5)
建設	32.5	34.3	29.2	30.8	34.6	35.7	30.4 (40.1)
製造	6.7	5.8	11.8	1.6	3.4	4.5	0.5 (13.8)
卸売	32.5	40.9	35.1	33.7	32.1	34.4	17.8 (17.6)
小売	30.3	35.4	25.2	17.7	24.7	29.3	6.3 (22.3)
サービス	28.2	26.4	24.5	25.2	28.3	27.6	10.6 (18.0)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

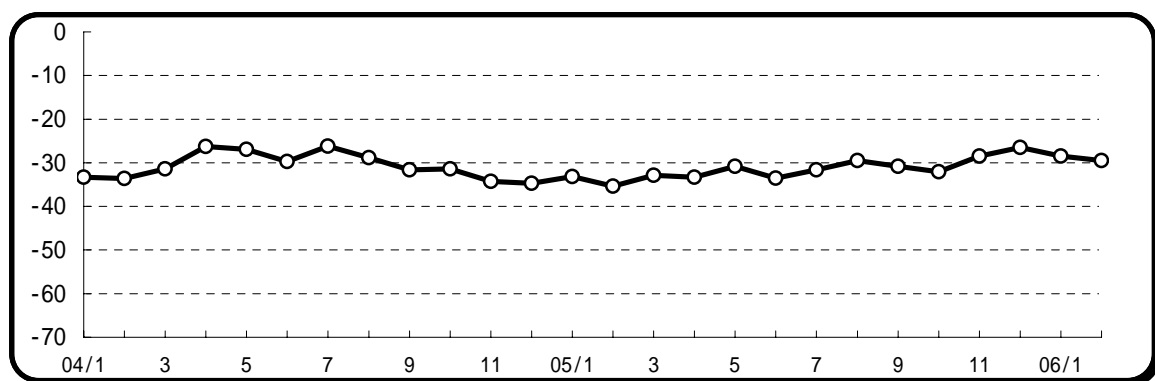
採算面では、D I 値のマイナス幅は建設、卸売、サービスで縮小したものの、他の2業種では拡大したため、全産業合計の採算D I は1.0ポイント拡大して29.5となり、2カ月連続で拡大した。

向こう3カ月(3月～5月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が17.2と、昨年同時期の先行き見通し(23.3)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	17年 9月	10月	11月	12月	18年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	30.8	32.1	28.5	26.5	28.5	29.5	17.2 (23.3)
建設	42.6	43.1	41.9	43.1	45.4	43.7	34.9 (41.3)
製造	23.5	21.6	24.1	18.9	17.8	18.8	11.3 (22.0)
卸売	33.1	41.5	27.9	27.6	31.4	26.6	15.8 (13.8)
小売	29.8	33.3	22.5	22.8	23.3	28.8	12.9 (19.5)
サービス	31.3	31.3	31.6	27.9	34.0	33.6	17.6 (20.9)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	17年 9月	10月	11月	12月	18年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	19.6	19.0	17.3	18.6	18.8	19.4	15.4 (19.2)
建設	30.8	29.8	27.6	31.3	31.3	32.8	30.0 (36.6)
製造	17.5	15.5	15.1	13.9	13.0	10.5	11.4 (13.8)
卸売	17.7	20.9	12.3	17.7	13.5	17.1	15.7 (13.6)
小売	16.2	16.6	14.8	15.1	15.4	18.0	12.5 (16.2)
サービス	18.3	17.2	17.5	19.1	22.8	22.8	13.3 (19.2)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】製造で悪化超感が弱まったものの、サービスで横ばい、他の3業種では強まり、全産業合計でも3カ月連続で若干強まる。

【先行き見通しD I】卸売で昨年同時期に比べ悪化超感が強まったものの、他の4業種では弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	17年 9月	10月	11月	12月	18年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全産業	19.5	19.0	17.7	18.5	21.8	19.6	17.1 (13.9)
建設	28.4	31.0	30.6	24.0	29.1	25.7	22.8 (16.9)
製造	35.0	36.3	34.6	35.7	32.3	34.6	24.3 (26.0)
卸売	14.7	13.2	1.3	8.0	18.2	9.1	19.1 (17.6)
小売	8.4	4.9	5.1	6.5	10.7	7.9	9.6 (5.3)
サービス	12.2	12.2	12.4	15.2	21.0	18.3	14.0 (7.9)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造で上昇超感が強まったものの、他の4業種で弱まったため、全産業合計でも3カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】製造で上昇超感が弱まったものの、他の4業種で強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	17年 9月	10月	11月	12月	18年 1月	2月	先行き見通し 3～5月
全産業	3.8	3.8	1.8	1.6	0.7	1.2	3.5 (8.1)
建設	17.4	19.0	16.9	14.7	17.9	17.6	17.1 (21.3)
製造	5.1	4.5	3.4	0.5	2.7	1.6	5.8 (10.7)
卸売	3.8	5.7	4.5	4.3	3.1	1.3	6.4 (8.8)
小売	3.5	2.8	6.5	1.5	7.4	3.9	3.8 (3.6)
サービス	2.1	0.2	1.2	3.2	3.8	0.3	0.5 (1.1)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】建設、卸売で過剰超感が弱まり、製造で不足超感に転じたものの、小売、サービスで不足超感が弱まったため、全産業合計でも5カ月ぶりに過剰超感が若干強まった。

【先行き見通し D I】小売、サービスで不足超感に転じ、他の3業種でも過剰超感が弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成18年2月の景気キーワード】

回復への動き

各業種から、業況好調、売上増加、消費回復、先行き期待という声が寄せられている。「県内主要企業の株価上昇など、全体的に景気は上向き傾向にあると感じている」(那覇・電気工事)「製品販売価格の下落傾向が修正されつつあり、収益率の向上が見受けられる」(函館・水産食料品製造)「受注量は安定しており、しばらくはこの状況が続く見通し」(相生・船舶製造・修理)との声のほか、「個人消費は少しずつ上向いている」(松山・各種商品卸売)「新車、中古車ともに売上は好調を維持しており、自動車整備の需要も拡大している」(袋井・その他の小売)と消費回復への動きを指摘する声も寄せられている。また、「3月から4月にかけて大規模な店舗改装を行う予定であり、来店者数・売上の増加につなげたい」(徳島・百貨店)「新規得意先の増加により従業員の募集を行うも、他業種も好況で採用を強化しているのか、応募が皆無」(吹田・産業廃棄物処理)とのコメントも寄せられている。

悪化への懸念

一方で、各業種から、引き続き業況低迷と先行きへの懸念を訴える声も寄せられている。建設、製造からは、「公共工事・民間工事ともに受注量が少ないうえに企業の設備投資の動きも鈍く、業況は厳しい」(赤穂・一般工事)「大企業の業況は好転しているが、中小製造業は低迷が続いている」(川崎・通信機械器具製造)「今後、製材木製品の需要期を迎えるが、見積り依頼などの引き合いは多くない」(山形・製材木製品製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「一部企業は前年をクリアしたが、多くの企業はコスト増で苦戦しており、企業間格差が一段と拡大している」(京都・衣服・日用品卸売)「顧客に高齢者が多く、大雪による来店者数減少の影響が大きい」(金沢・商店街)「今月の売上増加は期末の駆け込み需要によるもので今後も安定して増加するとは思えず、業況は依然として不透明」(名古屋・ソフトウェア)といったコメントが寄せられている。

仕入・輸送コスト上昇

また、引き続き原油・素材価格の高騰等による仕入・輸送コストの上昇を訴えるコメントが寄せられている。建設、製造からは、「原油や素材価格の高騰により、原材料メーカーから近々のうちに値上げ要請がある模様」(守山・管工事)「原料および資材価格の高騰分を製品価格に転嫁できず、資金繰りは苦しい状況が続いている」(山形・鉄素形材製造)「原油価格高騰の影響による資材価格や運賃の値上がりにより苦慮している」(唐津・水産食料品製造)との声が寄せられている。また、小売、サービスからも「生鮮食品の仕入コストに加え、原油価格高騰に伴い運賃コストも上昇している」(福島・百貨店)「野菜を中心に原材料の仕入コストがかなり高くなっている」(沼田・他の一般飲食店)といった声や、「灯油価格の高騰がしばらくは採算面に悪影響を及ぼすものと思われる」(今治・旅館)といったコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
17年12月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇
18年 1月	回復への動き	悪化への懸念	仕入コスト上昇
2月	回復への動き	悪化への懸念	仕入・輸送コスト上昇

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは3カ月連続で拡大した。「引き続き個人住宅など民間工事のニーズが高く、設備投資も一部進むなど民間活力への期待感が高まっている」(一般工事)との声がある一方、「新年度へ向けて公共事業の発注時期になったが、公共事業自体が減少傾向にあるため、非常に厳しい状態」(建築工事)、「冬季は工事が少なく、資金繰りが厳しい」(大工工事)、「公共事業の減少に加え、原材料仕入コストや運賃の上昇も重なり、採算面で大きな影響を受けている」(一般工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況・採算D Iは3カ月ぶり、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「工作機械・産業機械・自動車用鋳物部品の受注は引き続き好調を保っている」(鉄素形材製造)、「売上、営業利益ともに前年同月に比べて増加しており、景気の回復は中小企業でも感じられるようになってきた」(工業用プラスチック製造)との声がある一方、「受注はあるものの、原材料の仕入コスト上昇や人件費の増加により、採算は好転していない」(金属加工機械製造)、「春物の受注減少や原材料の値上がりで厳しい状況が続いており、昨年末からの売上増加も天候が原因で一時的なもの」(ニット・シャツ製造)、「中小企業にも業況改善傾向が波及しているというが、当業界では需要不足が続いており、先行きに期待が持てない」(製材木製品製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上D Iは4カ月ぶりに拡大した。「昨年から上向きつつある荷動きがさらに活発化することを期待したい」(衣服・日用品卸売)との声がある一方、「取引先の弱体化が激しく、卸売業界でも景気が回復しているとは到底言えない」(食料・飲料卸売)、「業況は少しずつ改善の方向へ進みつつあるが、一時的な動きとの見方もあり、先行きに自信が持てない状況が続いている」(衣服・日用品卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況・売上D Iは2カ月連続、採算D Iは3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「交通インフラの整備により商圈の拡大が見込まれ、この機会を逃さなければ、今後、商店街の活気が回復するのではないか」(商店街)、「来店者数はほぼ前年並みであったが、売上が増加しており、業況は堅調に推移している」(百貨店)との声がある一方、「競争激化に加え雪害などにより売上高が減少しており、採算面でも仕入コスト上昇分を販売価格へ転嫁できず、苦しい状況が予想される」(百貨店)、「地域経済に回復の兆しがなく消費者の購買意欲も低いままで、業況は非常に厳しい」(商店街)、「仕入コスト上昇と為替の影響で販売価格の上昇が生じ、売上が減少した」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況・採算D Iは2カ月ぶり、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「保管貨物の荷動きは全般的に若干の改善が見られ、特に電気機械においてその傾向が見られる」(その他サービス)、「年末年始と春の観光シーズンの端境期であったが、地元名物目当ての来客数が増えている」(旅館)との声がある一方、「売上は昨年末から低迷しており、業況についても悪化傾向に歯止めがかからない」(旅館)、「昨年並みの売上を維持しているものの、競争激化により、今後予想される仕入コストの上昇分を販売価格に転嫁できない状況にあるため、先行きは厳しい」(他の一般飲食店)、「自動車の燃料である軽油の値上げ傾向が続いており、採算が悪化している」(その他サービス)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、関東、東海、中国でマイナス幅が拡大したが、他の5ブロックで縮小したため、全ブロック合計でも2カ月ぶりに縮小した。

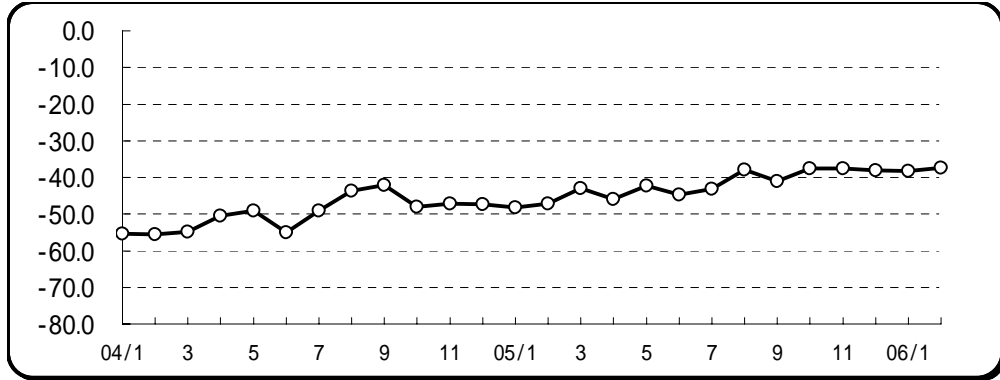
ブロック別の向こう3カ月(3月~5月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北海道で悪化したものの、他の8ブロックで縮小し、全ブロック合計でも縮小している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

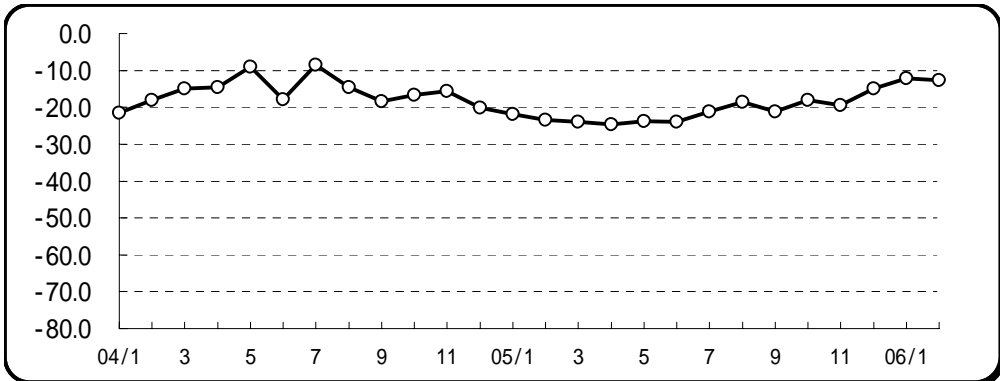
	17年 9月	10月	11月	12月	18年 1月	2月	先行き見通し 3~5月
全 国	30.8	29.2	29.0	25.1	26.9	26.6	16.9 (27.4)
北海道	36.0	39.3	30.0	34.9	25.9	35.4	27.3 (25.0)
東 北	30.9	25.0	28.9	26.4	34.2	25.2	21.3 (34.7)
北陸信越	24.1	23.6	23.7	19.0	33.3	28.0	12.7 (21.8)
関 東	28.5	27.3	26.0	21.9	19.2	21.0	9.7 (24.0)
東 海	27.8	25.4	29.5	17.9	14.9	17.2	15.5 (23.0)
近 畿	28.9	31.2	32.4	24.7	34.5	32.2	24.2 (37.1)
中 国	37.2	32.9	26.6	31.8	32.6	41.4	27.3 (33.1)
四 国	40.1	30.2	34.1	35.2	35.4	33.3	13.2 (16.7)
九 州	32.8	33.3	32.8	26.5	25.0	19.2	13.6 (30.5)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

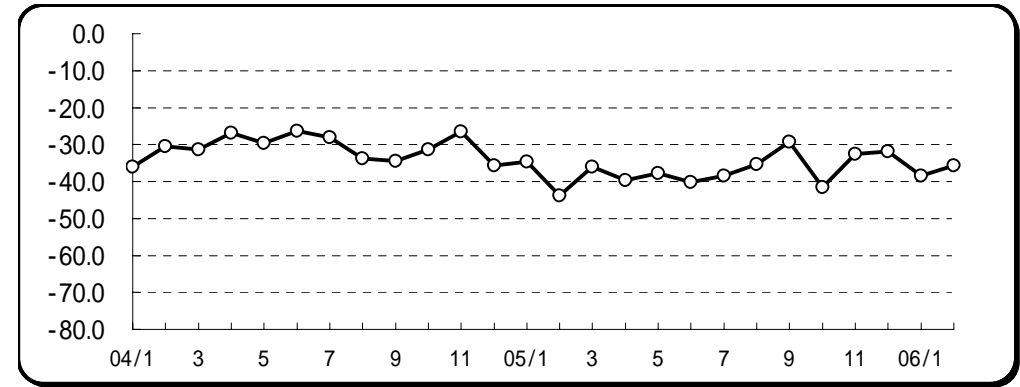
建設業



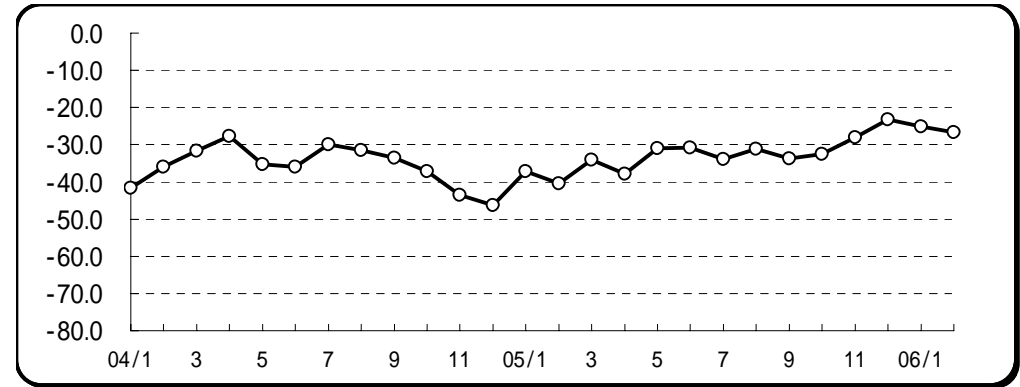
製造業



卸売業



小売業



サービス業

